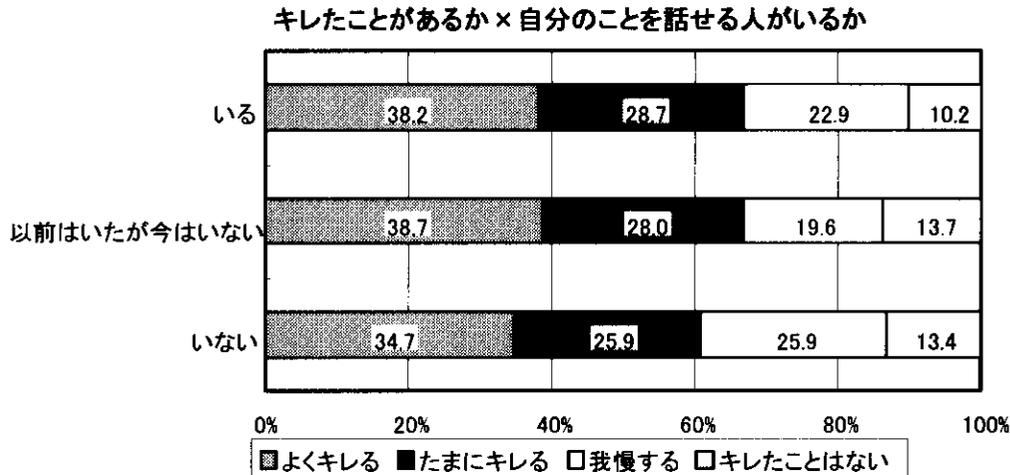


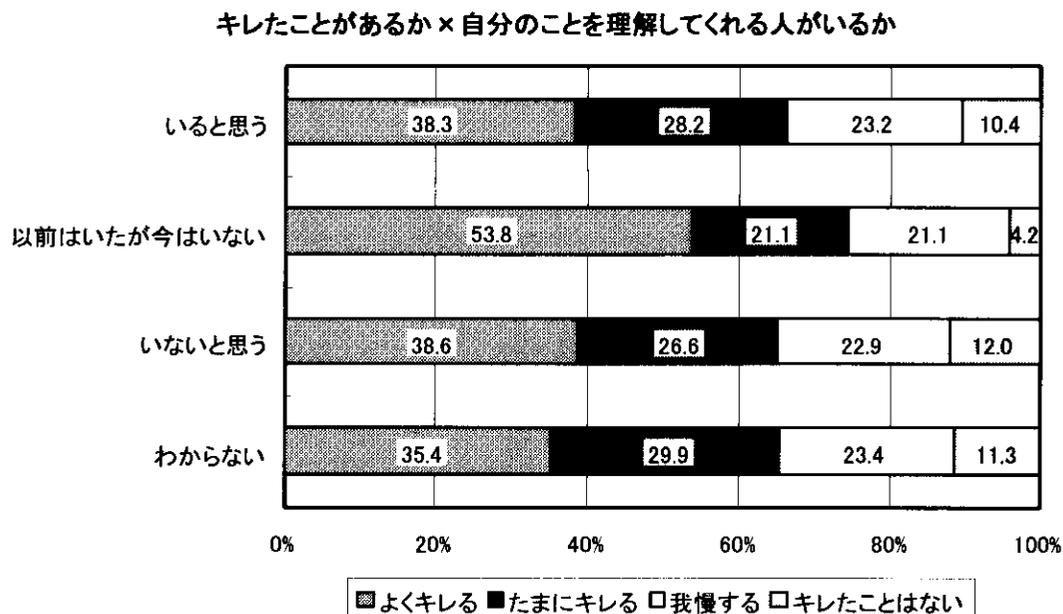
10. 自分のことを話せる人との関係

自分のことを話せる人がいることと「キレル」割合には明確な傾向が見られなかった。また、自分のことを話せる人が誰かということについて「親」「兄弟姉妹」「友達」「先生」「その他」の中で回答を求めたが、この区分でもキレルこととの関係で明確な差異は現れなかった。



11. 自分のことを理解してくれる人との関係

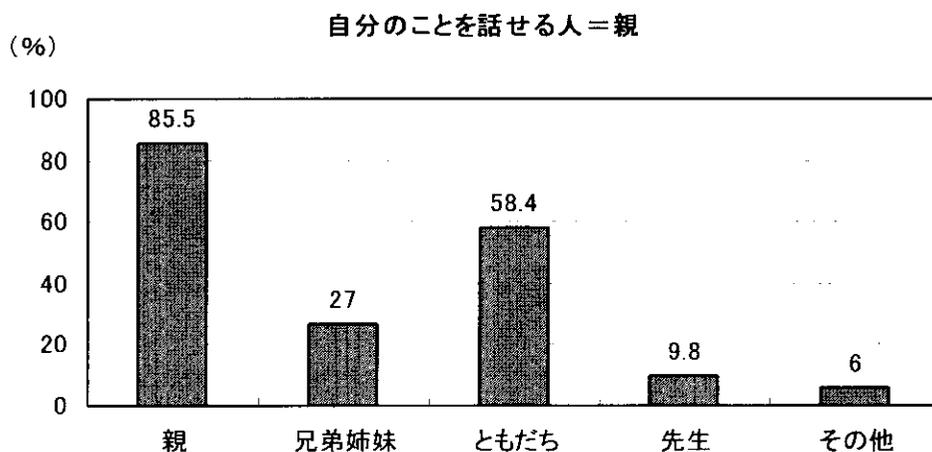
逆に自分のことを理解してくれる人の有無は、質問別に差が見られた。「いると思う」「いないと思う」では大差は無かったが、「以前はいたが今はいない」では5割を超える子どもが「よくキレル」と答えている。しかし、自分を理解してくれる人の内訳で「親」「兄弟姉妹」「友達」「先生」「その他」ではキレルこととの関連の差は見られなかった。



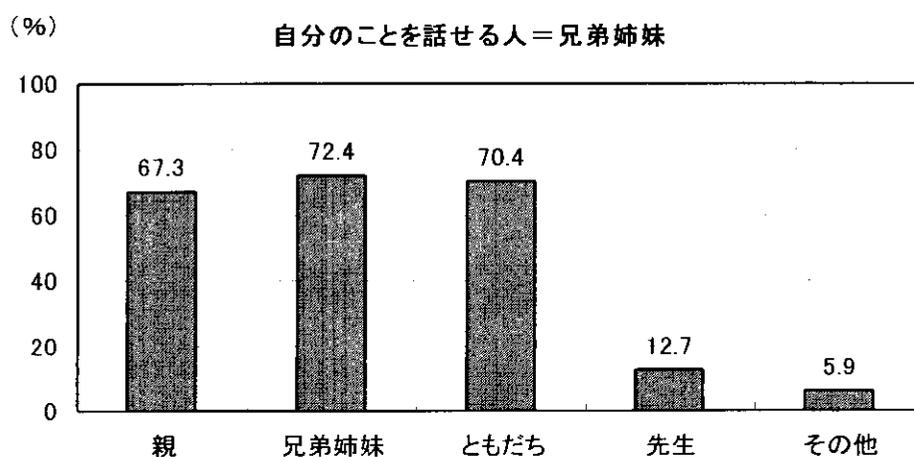
自分のことを話せる人と自分を理解してくれる人

さらに、自分のことを話せる人と自分を理解してくれる人との関係についてクロス集計を行なった。

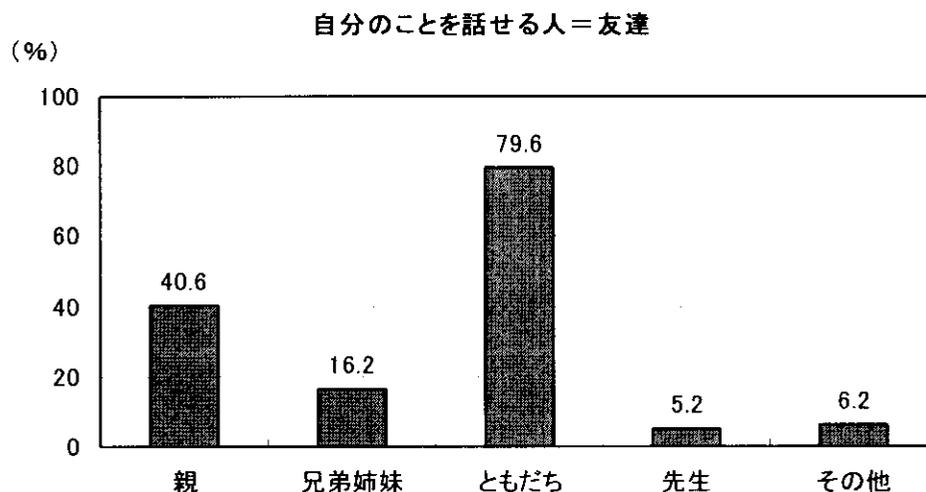
自分のことを話せる人を「親」と答えた子どもでは、自分を理解してくれる人は「親」が多く、85.5%が親は自分を理解してくれているとし、次に友達が 58.4%となっている。



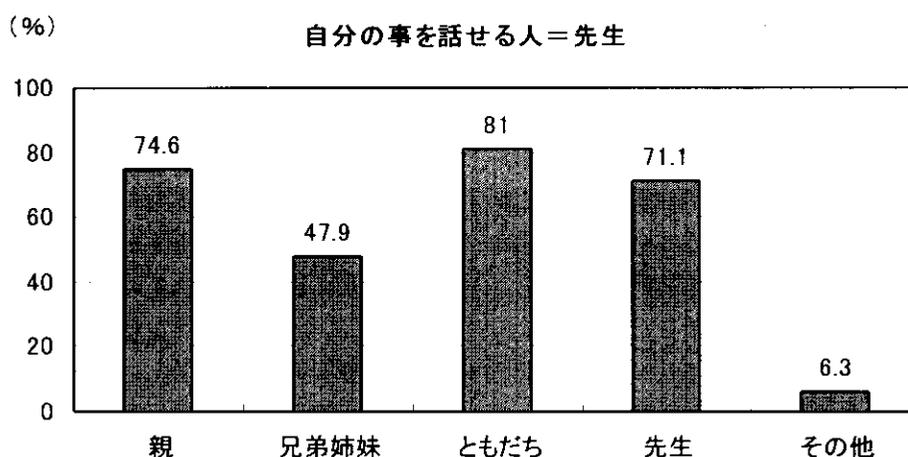
自分のことを話せる人は「兄弟姉妹」と答えた子どもにおいては、自分を理解してくれる人は「兄弟姉妹」72.4%と最も多いが、親や友達といった他の項目と大差無かった。



自分のことを話せる人が友達と答えた子どもは、友達が自分を理解してくれると考えており、80%弱の割合を占めている。逆に家族に対しては自分を理解してくれているとは考えていないといえる。



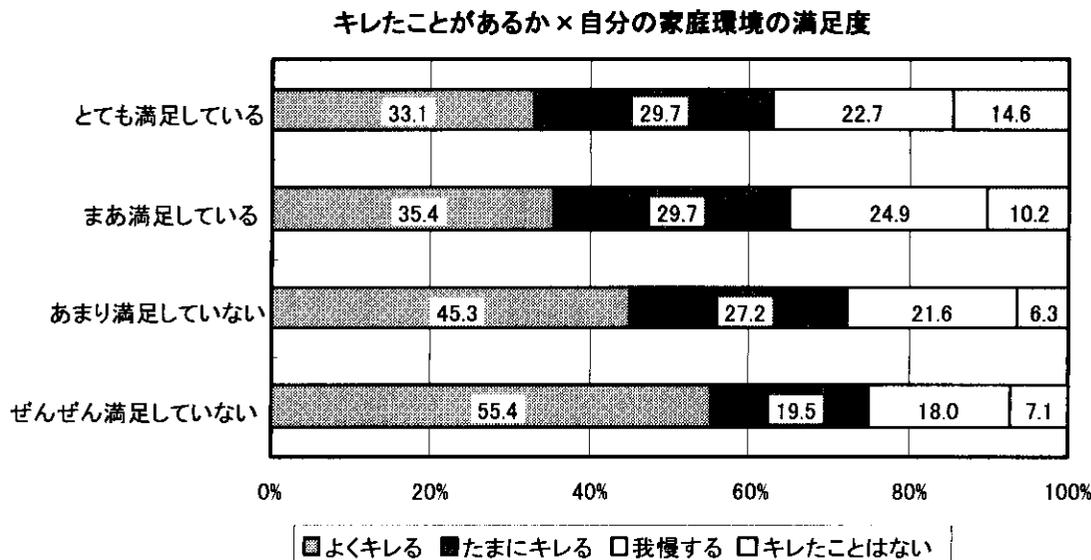
最後に自分のことを話せる人が「先生」と答えた子どもについては、自分のことを理解してくれる人は「友達」「親」が「先生」よりやや上位であり、話せる人と一致しないところが「親」「兄弟姉妹」「友達」を選んだ場合と異なっていた。



以上のように、どの項目でも「親」及び「友達」が高い割合を占めていた。子どもの話を聞いたり理解してくれると子どもに感じさせるためには、親と友達が重要な役割を担っているといえる。

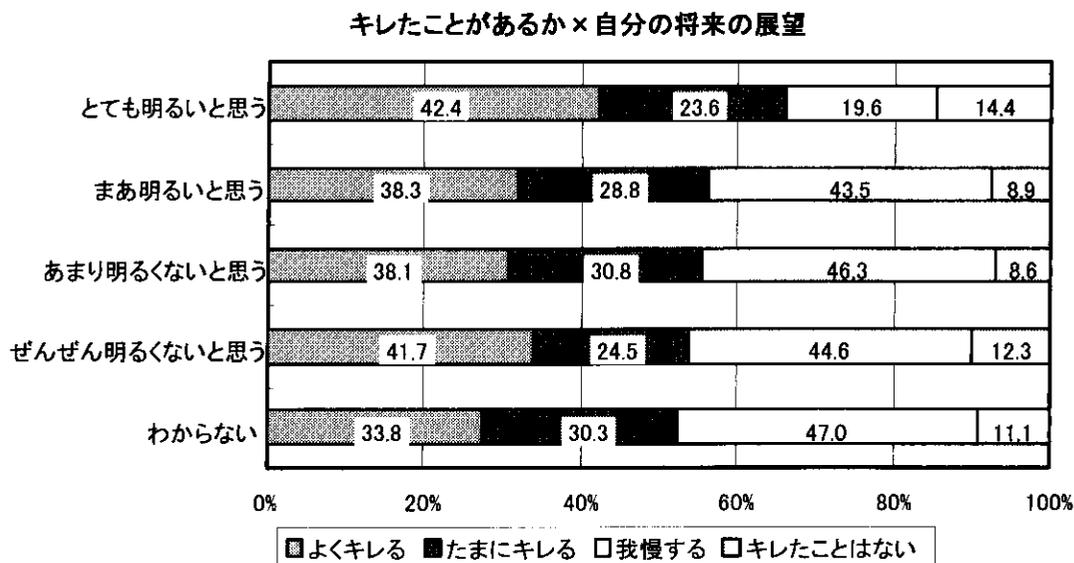
1 2. 家庭環境の満足度との関係

家庭環境との関係では、満足度とキレやすい頻度が大きく関係しているのがわかる。家庭環境に満足している子どもは「よくキレル」割合が少ないことに対して、「家庭環境にぜんぜん満足していない」子どもは55.4%が「よくキレル」を選択している。



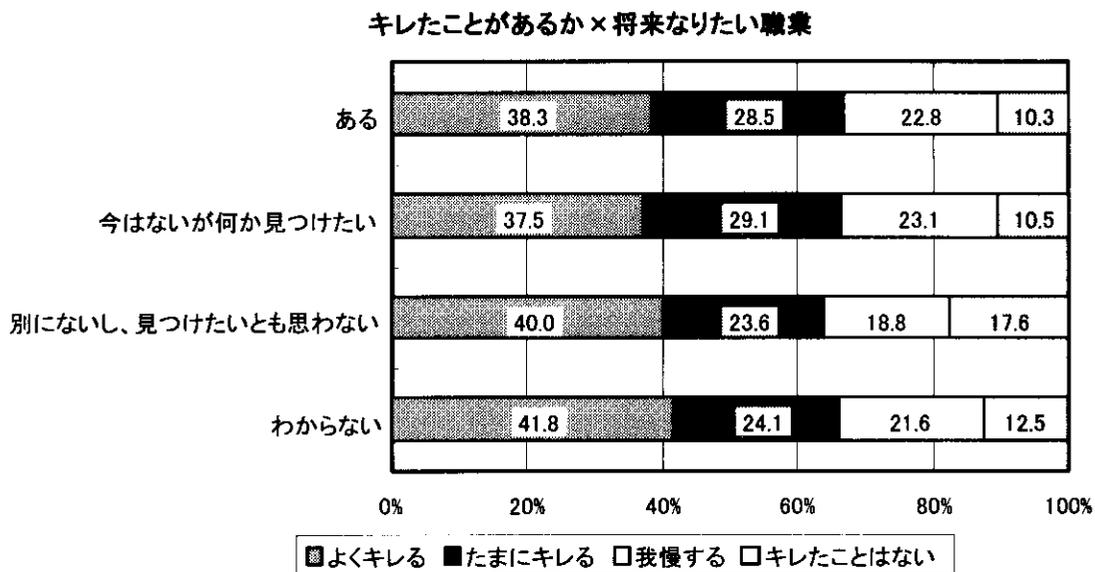
1 3. 自分の将来の展望との関係

自分の将来の展望との関係では、将来がとても明るいとした子供の方が逆に「キレル」を選択する頻度が高いことがわかった。これは、将来に対して楽観的な思考の者よりも警戒心を抱いたり、悲観的であることによって、あきらめや我慢などを学習することによるのかもしれない。いずれにせよ、将来に楽観的＝キレにくいだろう、という単純な構造は考えられないといえる。



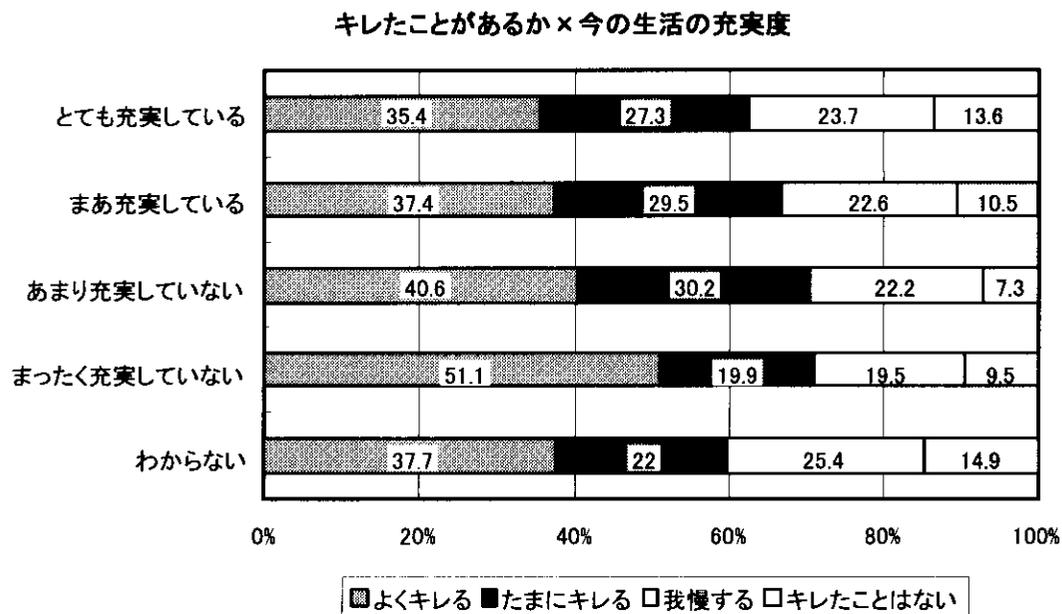
14. 将来なりたい職業

将来なりたい職業があるかどうかとキレることについては関係が見られなかった。



15. 今の生活の充実度との関係

今の生活の充実度は、家族環境の満足度と同様に、不満があるほどキレる頻度が高いことが示された。

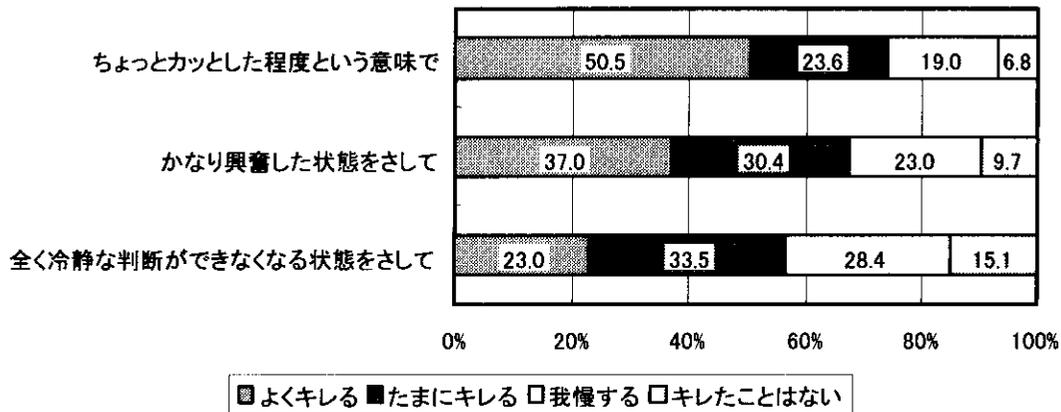


16. キレルという言葉の解釈・自己表現との関係

キレルという言葉の解釈について、意味の深刻さが増すに従い、キレやすいと答える頻度が下がっている。これは「よくキレル」子どもたちはキレルという言葉を経い意味で捉えており、逆に「我慢する」「キレたことはない」とする子どもたちはキレルという言葉を経く受け取っていることを示している。

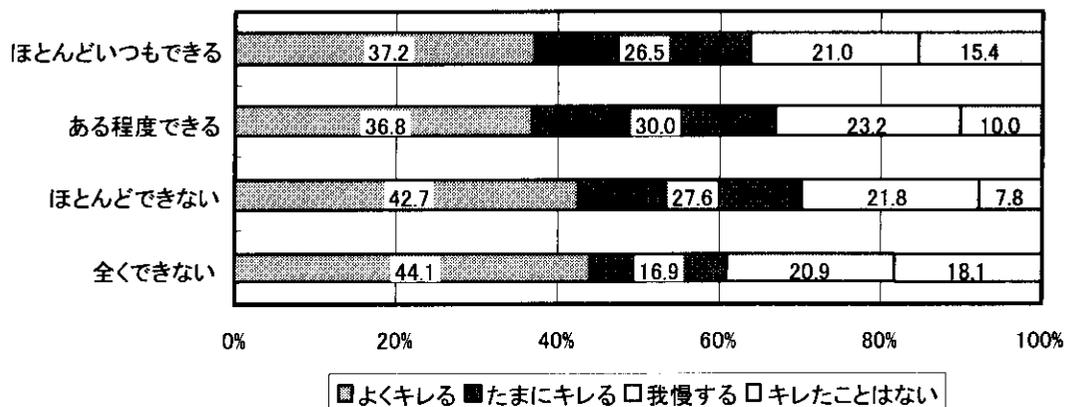
またキレやすさとキレルということの本当の意味の捉え方については、捉え方によっての大きな差は認められなかった。

キレたことがあるか×キレルの解釈



また自己表現とキレルこととの関係では、「よくキレル」頻度については、自己表現ができないほど「よくキレル」を選択する傾向にあることが分かった。しかし、自分を表現することが「全くできない」と解答した層は「よくキレル」を選択した割合も高いことと同時に、「キレたことは無い」を選択する割合も最も高いという傾向を示した。

キレたことがあるか×自分を表現できるか



17. «キレル»に関する自由回答部分からの考察

「A：キレル子ども」「B：我慢する子ども」「C：キレたことのない子ども」に分類

① キレルことについて、責任の所在の明確な差異：「責任転嫁」と「自己責任」

全体を通して、A、B、C3つの群に分けたとき、キレた原因が誰にあるかということについて明確な差異があった。即ち「キレル子ども」は『キレルことは自分のせいではなく、自分をそのような状態に追いやる周りの人間・環境が悪い』としているのに対し、「我慢する子ども」「切れたことのない子ども」は『キレル者は自分が悪い』という意見がより多く見受けられ、キレルことに対して軽蔑・侮蔑的な意見も多かった。また、「キレル子ども」については物事の捉え方、考え方、対処の仕方が幼稚・直情的であり、「親」「友達」「学校」「国」などに責任を転嫁する傾向が強いのに対し、「我慢する子ども」「キレたことがない子ども」は大人・観察者的な視点が強く、自己制御がある程度できているように思われる。そして自己制御ができている分、「キレル」ことについては自己責任を求める傾向がみられた。

② キレルということについての定義、子どもにおいて明確ではない

内容的に«キレル»ということに対しての明確な定義がなく、感情の問題であるから当然かもしれないが、尺度が随分違うことが分かった。何処からがキレルで何処が違うのか、「イライラ・ムカつく・ウザイ」の部分では共通して違ふと認識しているものの、怒ることを«キレル»と思う子もいれば、自暴自棄になり、記憶がなくなることを«キレル»と認識している子どももいて、子ども間でも明確な定義はないといえる。

③ 原因としてのストレス、解決手段としての我慢とカルシウムとコミュニケーション

A群「キレル」、B群「我慢する」、C群「キレない」の3群の子どもに共通する見解は、キレル原因は「ストレス」ということであつた。解決手段としては、「我慢するしかない」「カルシウム」を取るということも多くの子もたちが述べていた。また「話のできる親や友達を持つ」ということも多くの子もたちが思っていた。ただ何百人もの子どもたちがキレル原因を「カルシウム不足」と言い切ってしまうことも異様であつた。カルシウムを取ればイライラがなくなる・キレなくなると、魔法の薬のように思っているのだろうか。医学的に実証されていることとはいえ、情報に流されて本来の「我慢する」ことなど自我の形成の大切さが忘れられているようだ。「我慢する」「キレない」の子供たちの中に、「(キレル子どもたちは)幼稚だから・バカだから、自分が制御できないんだよ」と言う意見が多くみられ、「カルシウムをもっととれば」と書かれていたが、その前に「我慢」「コミュニケーション」が必要とされることはいうまでもない。それらを学ぶことができる環境や姿勢が問題であろう。

④ 人間関係が希薄で自己表現の下手な子どもたち

A、B、C3群全ての子どもたちの多くが、「もっとコミュニケーションを取ればキレなくなるのでは」と述べているが、翻ってこれは、現在の子どもが親や友人など人間関係が希薄であることを示唆しているものと考えられる。解決法の中では「親がキレない子どもに教育すべき」や「大人をなめているからキレルんだ、大人がなめられないようになればいい」「厳しいけど優

しい先生がいれば」などコミュニケーションを大人に求めている子どもたちも多く、逆に、「こんな世界を作った大人が悪いんだ」という声もあった。いずれにしても子どもたちに人間関係の中で我慢することなどを経験させるには、子ども同士のみではなく、親や教師など大人との関係の中でも培うことのできるようにすべきであろう。現在では大人側が、「最近の子どもは分からない」ということで子どもとのコミュニケーションを自ら断ってしまう傾向もみられるが、こうした態度は改めねばならない。「自分のことを理解してくれる人」に「親」を挙げた子どもが多かったという結果からも、子どもは大人に対して、まだまだ「自分を見つめて欲しい。理解して欲しい」と絆を求めているのだ。また、友人関係においても、普通なら嫌な相手とは付き合わなければいいところを孤独感から逃れるために友人となり、結局ストレスとなって《キレル》という悪循環もあるように思われる。

さらに、キレルことを自己表現の手段ととっている子どもたちもいることが明らかになった。周りが使う《キレル》という言葉やニュースなどで耳にしたキレ方をマネして、「他人もそうだから」という意識の中で、『周囲に自分を認めさせるためにキレてみせる』、『キレルことがカッコいい』、『自分もちょっとキレてみよう』というようなパフォーマンスにすらなっている傾向が認められた。

⑤「キレルことは悪いことではない」、「僕（私）に被害がなければいいや」という意識

子どもたちの中には「キレル」ということに対する抵抗がなくなりつつある。特にA群の「キレル子ども」の中には「別にキレたっていいじゃん」という意見も散見され、B群の「我慢する」、C群の「キレない」子どもたちの中でさえ、「それでしか自己表現ができないのであればしょうがない」などと容認する意見もみられた。さらに、「我慢する」「キレない」子どもたちの多くは、「別にキレてもいいが、僕（私）に迷惑だけはかけないでくれ、後は勝手にやってくれ」「別に他人はどうでもいい・関心がない」という空気も同時に存在した。

また、《キレル》ことはストレス解消の1つの手段と捉える子どもたちもいた。「定期的にキレていないとおかしくなる」「他人にキレルことを止める権利はない」など、「キレルことは悪いことではない」という中から、スポーツや趣味と同様に、キレルことでストレスを発散するとすら考える子どもたちがいるようである。

⑥非常に客観的な「我慢する」子どもたち

A、B、C3群の子どもたちの自由記載の中で、最も事態を把握していたのはB群の「我慢する」子どもたちであった。「キレル」子どもは非常に主観的であり、「キレない」子どもたちは相当淡白な答えが目立ったが、「我慢する」子どもたちは、「キレル人の気持ちもわかるけど、でも僕（私）はキレないように努力している」という立場であり、真摯な意見が多く見受けられた。

主要な意見としては「自分は自分でキレたくないとかキレたらいけないと思っているので、できるだけポジティブに考えるようにしている」「本当に傷ついたことがあれば、キレずにムカつくことも乗り越えられる。私は父が死んで、そのことで「しかたのないこと」を学んだ。そのときの痛みに比べれば我慢できると自分を抑えている」「キレル人たちはかっこつけたいと意識しているんじゃないか」「精神的に向上し、時には諦めることを知れ」「キレルのは周囲に自分を認めさせるためでは？」など、他の群ではみられない独特の意見が見られた。

E. 総括

《キレル》という言葉の意味や現状を把握し、さらに《キレル》現象出現の背景を検討するために、首都圏の中高生を対象に質問紙調査を行い、中学生 2448 名、高校生 2690 名、合計 5138 名から回答を得た。男女比は 6 : 4 で、中学生ではほぼ半々だったが、高校生は男子 65.4%、女子 34.6%と男子の方が多かった。年齢は、12~13 歳が 20.4%、14~15 歳が 29.8%、16~17 歳が最も多く 43.2%、18~19 歳が 5.5%だった。

どんな時にキレたかは、「他の生徒に嫌なことをいわれたとき」44.0%、「親に注意されたとき」35.3%、「誤解されたとき」28.2%、「自分の思うとおりにならなかったとき」26.2%で、生徒間のトラブルが最も高かった。そのときの態度は、「大声で怒鳴った」や「相手を見殺しした」が多く、叩く・殴るなどの暴力行為が次ぎに続いた。

キレた後どんな気分になったかは、「キレて気分がすっきりした」という子どもは 17%に留まり、「後で嫌な気分になる」「後悔する」「もうキレないようにしようと思う」「自分がとても嫌になる」など、反省・後悔を選択した子どもが多かった。

キレそうになったが我慢したと答えた子どもたちが、どのような時にキレそうになったかは、「他の生徒に嫌なことをいわれたとき」45.3%、「親に注意されたとき」26.3%、「誤解されたとき」26.1%となり、キレたことがあると答えた子ども達と順位的に違いはなかったが、キレルのを抑えた理由として、「後できっと後悔するだろうから」が約 40%、「馬鹿なことはしたくないと思ったから」が 38%であり、この二つが突出していた。他人がキレていることについて、「気持ちはわかるけどいけないことだ」という答えと同程度に「気持ちはわかるので仕方ない」との回答が多かった。

キレた経験のない子どもたちに、今後キレルことがあると思うか聞いたところ、「ない」「たぶんない」を合わせて 65%の子どもたちが自分はおそらくキレルことはないとしていた。しかし、周りがキレルことに対しては関係ないという淡泊な意見が多くみられた。

《キレル》ことと生活環境等の関連を検討するため、キレたことの経験を問う質問の答えを以下のように分類した。

「しょっちゅうある」5.3%、「1日1回くらいはある」3.2%、「1週間に何回かある」5.2%、「時々キレル」24.3%は《よくキレル》グループとしたが、ここには約4割が含まれた。また、「数回キレたことがある」15%、「1、2回キレたことがある」13.2%を《たまにキレル》グループとし、さらに、「キレそうになったが、がまんした」23.2%を《我慢する》グループとした。これは中学生より高校生の方が男女共に高い割合だった。また、「キレそうになったことはないし、キレた経験もない」10.6%は《キレたことはない》グループとして分類した。

これら4グループと他の質問項目とをクロスすることで検討を行った。

キレルという言葉については、明確な定義がなく、尺度が個人によってかなり違うことが明らかになった。「イライラ・ムカつく・ウザイ」という言葉がかなりみられたが、それらは《キレル》とは違うと認識している。しかし、怒ることを《キレル》と思う子どももいれば、自暴自棄になり記憶がなくなることを《キレル》と認識している子どももあり、子ども間でも明確な定

義はないといえる。

それでも《キレル》の意味の深刻さが増すに従い、キレやすいと答える頻度が下がっていた。これは「よくキレル」子どもたちは、キレルという言葉を経い意味で捉えており、逆に「我慢する」「キレたことはない」とする子どもたちは、キレルという言葉を経い重く受け取っていることを示している。

性別による差は男女で明確に現れ、男子は「たまにキレル」比率が高く、女子は「よくキレル」比率が高かった。とくに女子は中学生においてよくキレルと認識しているが、キレルことを「ちょっとカッとした程度」という軽い意味で捉えている者が多かった。

年齢との関係では、前述のように年齢層の数にバラツキはあるものの、年齢が進むと共に「よくキレル」「たまにキレル」割合が確実に減少し、「我慢する」の割合が上昇していた。

家族との会話と《キレル》の関係では、日常的な家族とのコミュニケーションによってキレル割合が変化しており、家族とのコミュニケーションをよくとれている子どもはキレル頻度が少ないことが示された。逆に、「家族と全く話をしない」と答えた子どもは過半数が「よくキレル」と自己認識している。これは、思春期の子どもたちに対して家族がコミュニケーションを頻繁に取ればキレル頻度を抑えることができる、ということを示唆しており、家族との会話の重要性が強調される。

友達との関係では、家族とのコミュニケーションほど明確な差はみられなかった。「友達も多く、親友と呼べる友達もいる」と答えた子どもと「友達と呼べる人は全くいない」と答えた子どもではキレル頻度もほぼ同程度であり、「友達は少ないし、親友と呼べる友達もいない」はキレル割合が最も少ないが、「友達と呼べる者はまったくいない」はキレル割合が最も高いなど統一した傾向が把握できない。一口で友達といっても実際は複雑な関係であることが現れているように思える。友達とキレル頻度については重要な課題であると考えられるが、本調査からは関係が見いだせなかった。

食事との関係では、朝食を食べている頻度が高いほうがキレル割合の低いという結果が得られた。しかし、「朝食を食べない」と答えた子どものうち 35%が「キレずに我慢する」と答えている。こうした両極の回答が得られた理由については今後の課題として検討する必要がある。

就寝・起床時間については、時間帯による大きな差異は認められなかった。しかし、睡眠時間とキレ易さについては関連性がみられた。平日の睡眠時間が 2~3 時間の者では 8 割弱がよくキレルと回答しており、睡眠時間が長くなるほどキレル割合が減少していた。また、キレルことと熟睡できるかどうかについてもある程度の関連がみられ、さらに眠気とは密接な関係がみられた。「いつも眠い」と答えた子どもはキレル割合が 7 割に達し、「眠くない」と答えた子どもではその割合が 5 割程に抑えられていた。

部活動での疲労と負担感については、たとえ部活動で疲れても負担を感じないという場合は「キレたことはない」割合が多く、《キレル》については「疲労」よりも「負担」の方が直接的な原因となるものと考えられた。

イライラしていることは《キレル》と密接に関係しており、イライラしていることが「よくある」と答えた子どもの 6 割が「よくキレル」、2 割弱が「たまにキレル」で、合計約 8 割がキレルとしており、イライラしている事がなくなるほどキレル割合が減少していた。特にイライラしている事が「ほとんどない」とした子どもたちは、「我慢する」が

32.7%、「キレたことはない」が32.5%で、合わせて65%が「キレない」としており、キレないためにはイライラしないことが前提といえる。そのためには、子どもたちをイライラさせているもの（こと）は何なのか、イライラの原因を突き止めることが今後の大きな検討課題である。

以上の「睡眠時間」「負担感」「ストレス・イライラ」には「キレル」との明確な関連性が現れており、「キレル」に一定の歯止めを利かせるためには、この連鎖を断ち切る必要があると思われる。

さらに、キレルことといじめられた（被害者）経験の関係は、いじめられたことがある子どもの方がキレやすい傾向であり、さらに、いじめた（加害者）経験のある方が、ない方よりもキレやすい傾向にあることが分かった。結局、いじめられた側（被害者）も、いじめた側（加害者）もキレやすいということである。そこで、本調査のいじめに関する回答を「加害者兼被害者」「加害者」「被害者」「どちらでもない」の4グループに分類し、これらを「キレたことがあるか」とクロスすると、加害者側の方が被害者側よりもキレル傾向が強く、しかも、一方的な加害者よりも加害者兼被害者グループの方がキレやすいという結果が得られた。これは、いじめにあった者が再びいじめられないためにいじめる側になり、「キレル」という行動をとるなどして自己防衛を図っているのではないかと推察される。また、いじめの被害者のみのグループでは、「我慢する」「キレたことはない」が多くなっていた。これより、いじめの被害に遭った子どもは日頃じっと我慢をしているという状況が想定され、それが突然キレた場合は大きな事件に繋がるような可能性も考えられる。いじめに関してはさらなる検討が必要であるが、親や教師、社会全体としても、いじめは絶対に防がねばならないという認識を持つことが重要である。

「自分のことを話せる人がいる」とキレル割合には明確な傾向が見られなかった。しかし、自分のことを理解してくれる人の有無とキレルことには関連がみられた。理解してくれる人が「以前はいたが今はいない」では、5割を超える子どもが「よくキレル」と答えていた。また、自分のことを理解してくれる人は「友達」と「親」が高い割合を占めていた。一方「先生」は少なかった。

子どもの話を聞いたり理解してくれると子どもに感じさせるためには、親と友達が重要な役割を担っているといえる。家族とのコミュニケーションも「キレル」頻度と関連があることを考慮すると、親の子どもに対する役割の重要性が明らかになったといえよう。

さらに、家庭環境の満足度とキレやすさとは大きく関係していた。家庭環境に満足している子どもは「よくキレル」割合が少ないことに対して、「家庭環境にぜんぜん満足していない」子どもは半数以上が「よくキレル」と答えていた。

自分の将来の展望との関係では、将来がとても明るいとした子どもの方がキレやすいことがわかった。これは、将来に対して楽観的な思考の者は、うまくいかないことがあると我慢できない傾向があるとも解釈され、将来に楽観的＝キレにくい、という単純な構造ではないといえる。

今の生活の充実度は、家庭環境の満足度と同様に、不満があるほどキレル頻度が多かった。

自己表現とキレル頻度については、自己表現ができないほど「よくキレル」を選択する傾向にあった。しかし自分を表現することが「全くできない」と解答した層は「よくキレル」を選択した割合も高いが、同時に「キレたことは無い」を選択する割合も最も高かった。

た。自分を言葉で表現する能力は人間関係を円滑にする手段として重要であるが、それができなければ行動でキレル、ということに繋がってしまう。家庭や学校教育の中で、こうした能力を確実に身につけさせることが求められる。

《キレル》に関する自由回答では、「A：キレル子ども」「B：我慢する子ども」「C：キレたことのない子ども」に分類して検討した。

A、B、Cの3群に分けたとき、キレた原因が誰にあるかということについては、明確な差異がみられた。Aの「キレル子ども」は『キレルことは自分のせいではなく、自分をそのような状態に追いやる周りの人間・環境が悪い』としているのに対し、Bの「我慢する子ども」、Cの「キレたことのない子ども」は『キレル人は自分が悪い』という意見がより多かった。

また、A群の「キレル子ども」は物事の捉え方、考え方、対処の仕方が幼く直情的で、「親」「友達」「学校」「国」などに責任を転嫁する傾向が強いのに対し、「我慢する子ども」「キレたことのない子ども」は大人・観察者的な視点が強く、自己制御がある程度できており、「キレル」ことについては自己責任を求める傾向がみられた。

また、A、B、C3群の子どもに共通する見解は、キレル原因を「ストレス」としていることであった。解決手段としては、「我慢するしかない」「カルシウムを取る」ということが目立った意見であり、「話のできる親や友達を持つ」ことも多くの子どもたちが思っていた。しかし、キレル原因に「カルシウム不足」を挙げた子どもの数の多さが異様に思われ、テレビ等の影響の強さが感じられた。

一方で、A、B、C3群全ての子どもたちの多くが、「もっとコミュニケーションを取ればキレなくなるのでは」と述べており、言葉による表現力の重要性を認識しているが、翻ってこれは、現在の子どもが親や友人など人間関係が希薄であることを示唆しているとも考えられる。

解決法の中では「親がキレない子どもに教育すべき」や「大人をなめているからキレルんだ、大人がなめられないようになればいい」「厳しいけど優しい先生がいれば」などコミュニケーションを大人に求めている子どもたちも多く、逆に、「こんな世界を作った大人が悪い」という声もあった。いずれにしても子どもたちは大人に対して「うるさい」と思いつつも相当の影響を受けている。それゆえ人間関係の中で我慢することなどを経験させるには、子ども同士のみではなく、親や教師など大人との関係の中でも培うことのできる環境が必要である。現在では大人側が「最近の子どもは分からない」ということで子どもとのコミュニケーションを自ら断ってしまう傾向もみられるが、こうした態度は改めねばならない。「自分のことを理解してくれる人」に「親」を挙げた子どもが多かったという結果からも、子どもは大人に対して、まだまだ「自分を見つめて欲しい。理解して欲しい」と絆を求めているものと思われる。さらに、親同士がケンカをしたり、仲が悪かったりすることに子どもは傷ついており、親としての夫婦のあり方も子どもが《キレル》ことに関連があることが示された。

また、友人関係においても、普通なら嫌な相手とは付き合わなければいいところを孤独感から逃れるために友人となり、結局ストレスとなって《キレてしまう》という悪循環もあるように思われる。

さらに、キレルことを自己表現の手段ととっている子どもたちもいることが明らかになった。周りが使う《キレル》という言葉やニュースなどで耳にしたキレ方をマネして、「他人もそうだ

から」という意識の中で、『周囲に自分を認めさせるためにキレてみせる』、『キレることがカッコいい』、『自分もちょっとキレてみよう』というようなパフォーマンスにすらなっている傾向が認められた。

こうして、子どもたちの中には「キレル」ということに対する抵抗がなくなりつつある。キレることを容認する意見もみられ、さらに、「我慢する」「キレない」子どもたちの多くは、「別にキレてもいいが、自分に迷惑だけはかけないでくれ、後は勝手にやってくれ」「別に他人はどうでもいい・関心がない」という空気も同時に存在した。

また、「キレル」ことはストレス解消の1つの手段と捉える子どもたちもいた。「定期的にキレていないとおかしくなる」「他人にキレることを止める権利はない」など、「キレることは悪いことではない」という考えから、スポーツや趣味と同様に、キレることでストレスを発散するという子どもたちが出現している。

しかし、その一方で、「キレル人の気持ちもわかるけど、でも自分はキレないように努力している」という立場をとる子どもも存在し、現在の風潮に対して真摯な意見も多くみられた。

こうした子どもたちを無視して、大人までもが「キレル」現象を増長させるようなことがあってはならない。親、教師、学校、マスコミの責任は重大である。

「キレル」という現象を掘り下げてみると、親を筆頭に大人社会のあり方が大きく影響していることが感じられた。子どもは親や教師を無視したりうるさがったりしているが、それでも大人の生き方を見つめており、とくに親を頼り、親が自分をどう思っているかを大いに気にしているのである。本調査からも、「キレル」ということを肯定している子どもは少数で、キレた後はイヤな気分になることを経験しており、「キレル」という風潮に巻き込まれているだけの子どもが多いものと思われた。今後「キレル」子どもをなくしていくためには、子どものしつけや育児において出発点の出産のあり方から見直したり、子どもの教育において親の支援や親の教育についても検討するなど、社会のあり方全体を含めた根本的な対策が必要であろう。

謝 辞

本調査は、東京都、神奈川県、埼玉県の教育委員会や、中学・高等学校の校長先生、教頭先生はじめ多くの先生方に大変お世話になりました。3学期という多忙を極められる中にご協力賜り、誠に有り難うございました。心より感謝申し上げます。この報告書が何らかのお役に立てば幸いです。

資 料

アンケート調査のお願い

《キレる》という現象がみられる今日、中学生や高校生がこうした現状をどのようにとらえているのか、また、こうした状況にはどのような背景があるのかについて検討するため、アンケート調査を実施することになりました。プライバシーを侵害するようなことは決してありませんので、率直な意見を聞かせて下さい。また、答えられるものだけで結構です。

国立公衆衛生院（厚生労働省）・母子保健学部
担当：小林

I. 以下についておたずねします。（ ）には数字や語句を記入し、あてはまるものには番号に○をつけて下さい。

1. 生年・年齢： ①昭和・②平成（ ）年生まれ、現在（ ）歳
2. 性別： ①男 ・ ②女
3. 家族構成： 現在（ ）人家族で、（ ）人兄弟姉妹の（ ）番目
その他（ ）
4. 自分だけの部屋： ①持っている ・ ②持っていない
5. 家族との会話
① よく話をする
② まあまあ話しをする
③ 必要なことは話す程度
④ あまり話をしない
⑤ 全く話をしない
⑥ その他（ ）
6. 食事
(1)朝食について
① いつもきちんと食べる
② 大体食べる
③ 食べたり食べなかつたりする
④ 食べない
⑤ その他（ ）
- (2)食事状況
① いつも家族そろって食事をする
② 家族とだいたい一緒に食事をする
③ 家族と一緒に食事をするよりも、1人か子どもだけで食べることが多い
④ 家ではほとんど一人で食事をする
⑤ 家ではほとんど食事をしない
⑥ その他（ ）

7. 友達関係

- ① 友達が多く、親友と呼べる友達もいる
- ② 友達は少ないが、親友と呼べる友達がいる
- ③ 友達は多い方だが、親友と呼べる友達はいない
- ④ 友達は少ないし、親友と呼べる友達もいない
- ⑤ 友達と呼べる者は全くいない
- ⑥ その他 ()

8. 睡眠について

(1) 就寝時刻と起床時刻

- 1) 平日の就寝時間： 夜 ① 10 時前 ② 10 ～ 11 時 ③ 11 ～ 12 時 ④ 12 時～午前 1 時
⑤ 午前 1 時～2 時 ⑥ 午前 2 時以降 ⑦ その他 ()
- 2) 平日の起床時間： 朝 ① 5 時前 ② 5 時～6 時 ③ 6 時～7 時 ④ 7 時～8 時
⑤ 8 時～9 時 ⑥ その他 ()

(2) 睡眠時間

- 平日： だいたい () 時間くらい
- 休日前： だいたい () 時間くらい

(3) 熟睡できますか

- ① できる
- ② だいたいできる
- ③ できない
- ④ その他 ()

(4) 昼間、眠いですか

- ① いつも眠い
- ② ときどき眠い
- ③ 眠くない
- ④ その他 ()

9. 部活動について

(1) 部活動をしていますか

- ① 運動部に入っている → 1 日 () 時間くらい、週 () 日程度練習する
- ② 文化部に入っている → 1 日 () 時間くらい、週 () 日程度練習する
- ③ 以前部活動をしていたがやめてしまった → なに部ですか ()
- ④ 部活動はしていない
- ⑤ その他 ()

(2) 部活動に疲れや負担を感じますか

- ① とても疲れて負担を感じる
- ② あまり疲れないが負担を感じる
- ③ とても疲れるが負担は感じない
- ④ あまり疲れないし負担も感じない
- ⑤ その他 ()

16. それは誰ですか。

- ① 親
- ② 兄弟姉妹
- ③ ともだち
- ④ 先生
- ⑤ その他 ()

17. あなたは、自分の家庭環境に満足していますか。1つだけ選んでください。

- ① とても満足している
- ② まあ満足している
- ③ あまり満足していない
- ④ 全然満足していない
- ⑤ わからない
- ⑥ その他 ()

18. あなたは、お父さんやお母さんに何か望むことがありますか。(複数回答可)

- ① もっと自分を信用してほしい
- ② もっと話し相手になってほしい
- ③ もっと一緒にいてほしい
- ④ もっとおこづかいがほしい
- ⑤ 「勉強しろ」と言わないでほしい
- ⑥ もっと自由にさせてほしい
- ⑦ もっときびしくしかってほしい
- ⑧ ときどきいなくなしてほしい
- ⑨ 特にない
- ⑩ その他 ()

19. あなたは、学校の先生に何か望むことがありますか。(複数回答可)

- ① もっと自分を信用してほしい
- ② もっと自分を理解してほしい
- ③ もっと話し相手になってほしい
- ④ 成績のことばかり言わないでほしい
- ⑤ わかりやすい授業をしてほしい
- ⑥ 忙しそうにしないでほしい
- ⑦ もっと自由にさせてほしい
- ⑧ もっときびしくしてほしい
- ⑨ 特にない
- ⑩ その他 ()

20. あなたは、自分の将来が明るいと思いますか。1つだけ選んでください。

- ① とても明るいと思う
- ② まあ明るいと思う
- ③ あまり明るくないと思う
- ④ 全然明るくないと思う
- ⑤ わからない
- ⑥ その他 ()

21. あなたは、将来、なにかなりたい職業や目標などがありますか。1つだけ選んでください。
- ① ある
 - ② 今はないが、なにか見つけたい
 - ③ 別にないし、見つけたいとも思わない
 - ④ わからない
 - ⑤ その他 ()

22. あなたの今の生活は充実していますか。近い答えを1つだけ選んでください。
- ① とても充実している
 - ② まあ充実している
 - ③ あまり充実していない
 - ④ 全く充実していない
 - ⑤ わからない
 - ⑥ その他 ()

II. 次は《キレル》ということについての質問です。

1. 最近《キレル》という言葉をよく聞きますが、それはどのような意味で使っていますか。1つだけ答えてください。

- ① ちょっとカッとした程度という意味で
- ② かなり興奮した状態をさして
- ③ 全く冷静な判断ができなくなる状態をさして
- ④ その他 ()

2. 《キレル》の本当の意味は、どのようなことだと思いますか。1つだけ答えてください。

- ① 気持ちの上で我慢できなくなり、普段と違う乱暴な行動や言葉使いをすること
- ② 突然、びっくりするほどの大声をあげたり暴れたりすること
- ③ 日頃おとなしい人が突然凶暴な行動に出ること
- ④ その他 ()

3. あなたは、自分の考えていることをうまく言葉で表現できますか。1つだけ答えてください。

- ① ほとんどいつでもできる
- ② ある程度できる
- ③ ほとんどできない
- ④ 全くできない
- ⑤ その他 ()

4. あなたは「キレた」ことがありますか。1つだけ答えてください。

- ① しょっちゅうある (→質問Aへ p.6)
- ② 1日1回くらいはある (→質問Aへ p.6)
- ③ 1週間に何回かある (→質問Aへ p.6)
- ④ 時々キレル (→質問Aへ p.6)
- ⑤ 数回キレたことがある (→質問Aへ p.6)
- ⑥ 1, 2回キレたことがある (→質問Aへ p.6)
- ⑦ キレそうになったが、がまんした (→質問Bへ p.7)
- ⑧ キレそうになったことはないし、キレた経験もない。(→質問Cへ p.8)

質問A：Ⅱの4.の質問で①から⑥に○をつけた人へおたずねします。

A-1. どんなときにキレたのでしょうか。(複数回答可)

- ① 先生に注意されたとき
- ② 親に注意されたとき
- ③ ほかの生徒にいやなことを言われたとき
- ④ だれかからいじめを受けたとき
- ⑤ 自分の思うとおりにならなかったとき
- ⑥ 誤解されたとき
- ⑦ わからない
- ⑧ その他 ()

A-2. キレたとき、あなたはどうなりましたか。(複数回答可)

- ① 頭の中が真っ白になった
- ② 大声でどなった
- ③ まわりにあるものを力いっぱいたたいた
- ④ まわりにあるものを投げつけた
- ⑤ 相手をなぐった
- ⑥ 相手を無視した
- ⑦ わからない
- ⑧ その他 ()

A-3. 自分が「キレた」ことについて、後でどのような気持ちになりますか。(複数回答可)

- ① 気分がすっきりする
- ② 一時は気分がすっきりするが、後でいやな気持ちになる
- ③ しまったと後悔する
- ④ もうキレないように、と思う
- ⑤ 自分がとてもいやになる
- ⑥ 相手が悪いと思ってうらむ
- ⑦ わからない
- ⑧ その他 ()

A-4. あなたがキレる原因はなんだと思いますか。また、今後キレないためにはどうすればよいと思いますか。自由に記述してください。

(最後のページ8へ)